

globalforce.link 通信 [2018.4.9.]

[illegible]

グローバルフォース・ドット・リンク通信

(第 0082 号)

2018.4.9.

皆さま、お元気様でございます。

異文化コミュニケーション研究所(R)所長の島崎です。

神奈川県外国人数の調査結果が載っていました。(平成 30 年 1 月 1 日現在)

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/k2w/documents/r4904750.html>

昨年の調査では、県民の「約 49 人に 1 人」が外国人だったのですが、なんと「約 46 人に 1 人」が外国籍となったそうです。（県民比率 2.17%〈昨年調査：2.03%〉）

お年寄りの外国人が日本に住みつくことはありませんから、若い層の比率で考えると驚くような結果になるでしょう。

そして、これは加速していくことでしょう。

さて、受け入れる側の私たちの準備は十分でしょうか？

■トピックス■

1. 今週のフォーカス「英語の訓練」
2. 勉強会・セミナー等のご案内
3. 摩訶珍(まかちん)編集後記

| 1 | 今週のフォーカス「英語の訓練」

英語の苦手な日本人は多い。これには、政府の策略があったと聞いたことがあります。本当かどうかは知りませんが、戦後日本が焼け野原から立ち上がるためには、優秀な人財を海外に行かせることなく日本国内で働かせる必要があった。英語ができる人財を作ってしまうと、その人たちは海外に流出する恐れがあるため、読み書きする英語は学ぶが、コミュニケーションができるようにはさせなかった...というのです。

都市伝説かもしれませんが、そうかもしれないな～と思いませんか？

しかし、今となってはこの英語力のなさが致命的なデメリットになっています。なんせ、日本人しか雇えないのですから。マーケットがボーダーレスになり、ビジネスがグローバルになっているにも関わらず、また人口の3%近くが既に外国人になっているにも関わらずです。

難しいことは必要ありません。コミュニケーションするための英語を習得しなくてはなりません。ペラペラ話す人の前になると、恥ずかしくなって何も言えなくなってしまうのでは、どうしようもないのです。

皆さんには当研究所のノウハウ《俺のイングリッシュ》のことを何回かご紹介していますが、その基本をベースに、是非行ってもらいたい訓練があります。

一日30分でも構いません。そして足りない部分を自分で勉強すれば良いのです。窓を閉じていれば、太陽の光は差してきません。

U

*_**

*_

ただ、もちろん当日直接留学生とコミュニケーションが取れる【neoGET TOGETHER】にご参加頂くのがベストですが、ビデオ撮影に、より多くの企業へ優秀な留学生をご紹介できるようになるので、とても楽しみです。

- 弊社は、白羽の矢を立てるべきは「外国人留学生」だと考えます。
- 日本語が使える、日本文化に造詣がある「優秀な留学生」が日本には
- たくさんいます。そして、彼らは日本で働きたいと思っています。
-
- 多様な異文化視点を持つ globalforce(高度外国人財)を活用する
- ことで、「新たな価値の創造」につなげることができます。
- ”globalforce”は企業にとって貴重な人財です。
-
- しかし、多様性を受け入れることはチャレンジングなことです。
- 一筋縄ではいかない。障害物競走のように、いくつもハードルを超
- えて行かなければなりません。当研究所は、採用から活用に至るまで
- 企業のチャレンジをお手伝い致します。

「」「」「」異文化コミュニケーション研究所(R) (iCCC)

「」「」「」 <http://www.globalforce.link>

「」「」 横浜市神奈川区青木町 3-15 SSビル 201 号室

「」 Tel:045-307-8248(代) FAX:045-461-1577

「」 代表取締役社長 所長 島崎ふみひこ

(当研究所は、株式会社フィギュアネットの事業部です。)